

第2期朝倉市地域福祉活動計画

第1期（平成21年度～平成25年度）計画

継続版（平成26年度～平成30年度）計画

第2期（2019年度～2023年度）計画

平成31年3月 社会福祉法人 朝倉市社会福祉協議会

第2期 朝倉市地域福祉活動計画

はじめに

少子高齢化や核家族の進行、人口減少や地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く変化により住民の福祉ニーズも多様化し、複雑化してきています。また、子どもの環境の貧困や高齢者・障がいのある人への虐待など、課題を抱える人の孤立化も見られます。

さらに、平成29年7月の九州北部豪雨で甚大な被害を受けたことで、私たちに地域のつながりの大切さを深く認識させることとなりました。

こういった中、本会は、地域福祉の伸展を目指し、これらの社会変化に即応できる活動を進め、「ともに認め合い、支え合う、ぬくもりのあるまちづくり」の実現に向け第2期地域福祉活動計画を策定いたしました。

目次

1. 上秋月地区社会福祉協議会	1
2. 秋月地区社会福祉協議会	5
3. 安川地区社会福祉協議会	9
4. 甘木地区社会福祉協議会	13
5. 馬田地区社会福祉協議会	17
6. 立石地区社会福祉協議会	21
7. 福田地区社会福祉協議会	25
8. 蜷城地区社会福祉協議会	29
9. 金川地区社会福祉協議会	33
10. 三奈木地区社会福祉協議会	37
11. 美奈宜の杜地区社会福祉協議会	41
12. 高木地区社会福祉協議会	45
13. 朝倉地区社会福祉協議会	49
14. 杷木地区社会福祉協議会	53

上秋月地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う めくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

上秋月地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	870人
②	世 帯 数	342世帯
③	65歳以上	384人
④	75歳以上	223人
⑤	高齢化率	44.1%

⑥	少 子 化 率	6.0%
⑦	行 政 区 数	9区
⑧	民生児童委員数	6人
⑨	福 祉 委 員 数	18人
⑩	ネットワーク委員	25人

平成31年1月31日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認の実施	・ ボランティア活動に参加できる環境づくりに努めている
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 福祉委員（10戸に1名程度）を配置
・ ほのぼの配食及び会食の実施（配食10回、会食1回）	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（11か所）	・ サロン等では出前講座を活用

■世代間連携福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 伝統行事に積極的に参加するように呼びかけ
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	
・ ボランティア活動の推進を行っている	
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加を呼びかけ	
・ 小中学生とサロンでの交流会を実施	

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動の実施	・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守りの実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	（青補協活動）
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 学童保育を秋月小学校で実施
・ ボランティア活動に参加できる環境づくりに努めている	・ 児童青少年育成活動を支援
・ ボランティア活動の推進を行っている	

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 移送手段の確保に向けた取り組み（公共交通の利用） を呼びかけている	

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・ 隣近所における要支援者の把握（福祉委員、民生委員）	・ ボランティア団体への支援を実施
・ 災害時における人員把握と支援体制づくり（区会長）	・ 移送手段の確保については、公共交通の利用を呼びかけ
・ ボランティア活動の推進を行っている	
・ 愛のネットワーク推進の取り組み	・ 市報（各戸配布）を活用
・ 福祉団体（ボランティア団体）との連携を実施	

上秋月地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)

・ほのぼの配食及び会食会の充実	・地域住民に食材提供を依頼していく	実施	→		時々食材提供がある。その食材に合わせて、メニューを作成している。ボランティアの方が持ち寄ることもある
・ボランティア活動への参加	・広報紙や声かけ等により呼びかけを行っていく	実施	→		参加者が増え、安定している。(配食ボランティア 十石会は、17名程度で丁度良い)
・ボランティア育成の推進	・学習会等の開催を実施していく	実施	→		市が実施している出前講座(年1~2回)を開催している
・福祉委員の設置	・地域の役職交替で変更があるため、研修・引継ぎを行う	実施	→		実施中。ほとんどの地区が1年交替されるので、年に1回福祉委員会(民生委員・役員)を開催している。(ファイルを持ってもらい、引き継ぎのために使ってもらっている)

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・ボランティア活動推進の更なる充実	・学校行事と重ならないように調整していく	実施	→		中学生が夏休みに、配食ボランティアとして参加し交流している
・地区での交流の場づくり	・地区行事への参加を呼びかけを行っていく(有線放送や学校を通じて)	実施	→		小学校主体の事業へ参加している(三世代GG大会)ふれあいいきいきサロンへ夏休み時の小中学生の参加 コミュニティ主催の町民体育祭や文化祭に参加している

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・登下校時のあいさつ見守り、声かけ運動	・学校行事を把握しあいさつ・声かけ運動を継続していく	実施	→		下校時、青バトとしてボランティア・民生委員・PTAが参加し見守りを行っている 下校時、コミュニティに立ち寄っている(自主的に立ち寄り、勉強や遊びを行っている)
・ボランティア活動の推進	・コミュニティだよりや有線放送等で呼びかけていく	実施	→		上秋月読書会による月1回の読み聞かせや年2回のお楽しみ会を実施している

上秋月地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)

・地域の行事や交流の場への参加	・当事者へ広報紙等により積極的に参加を呼びかけていく	検討	→	実施	個人情報把握するのは難しいため、具体的な取り組み方法を今後検討する
-----------------	----------------------------	----	---	----	-----------------------------------

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)

・福祉マップづくり	・防災マップづくりに併せて福祉マップを作成していく	検討	実施	→	今後、福祉マップを地区内で協議しながら取り組む
・災害時における人員把握と支援体制づくり計画の見直し	・地区全体の防災組織と連携していく ・地域防災計画を再編したい	検討	実施	→	民生委員による要援護者の実態把握に協力(福祉委員)し地区社協で進める
・愛のネットワークの推進	・引き続き研修会、視察研修を開催していく	実施	→		今後も継続的に見守りを行う

秋月地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

秋月地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	747人
②	世 帯 数	351世帯
③	65歳以上	335人
④	75歳以上	204人
⑤	高 齢 化 率	44.8%

⑥	少 子 化 率	11.0%
⑦	行 政 区 数	8区
⑧	民生児童委員数	5人
⑨	福 祉 委 員 数	0人
⑩	ネットワーク委員	29人

平成31年1月31日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・隣近所への声かけや安否確認の実施	・介護施設入所者への訪問を年1回実施
・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・小中学生を含め朝・夕あいさつを実施
・ほのぼの配食及び会食会の実施（配食5回会食1回）	・民児委員による要援護者の調査を随時実施
・ふれあい・いきいきサロンの設置個所（8か所）	・サロン等で出前講座の活用
・民生委員、協力委員による隣近所への安否確認	

■世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・サロンに様々な技術を持った方が参加
・小学生を対象に合同合宿「平陽塾」を実施
・伝統行事に積極的に参加するように呼びかけ

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・登下校時のあいさつ、声かけ運動の実施	・子育てサロンの推進を年に2～3回実施
・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・児童青少年育成活動を支援
・防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動の実施 （青補協活動）	
・秋月地区28名の学童で実施	

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・地域の行事や交流の場（サロン）に参加
・サロンにて車いすの研修を行い、障がいについての理解に努めている

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・隣近所における要支援者の把握に努めている
・愛のネットワークの推進に取り組んでいる

秋月地区社会福祉協議会 「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉 (高齢者を対象とする福祉サービス)					
・地域行事やボランティア活動への積極的な参加	・引きこもりがちな高齢者へサロンへの参加を呼びかけていく	実施	→		前年に変わらず、会食会を含め参加を呼びかけるサロン開催回数を増やしていく
・ボランティア活動への参加	・コミュニティの機関紙にて呼びかけを行っていく	実施	→		毎月1回発行のコミュニティだより及びサロン活動にて実施する
・ボランティア育成の推進	・コミュニティにて活動への参加と育成の実施を図る	実施	→		コミュニティ委員を含め地域住民とともに神社通りの清掃を行う
・愛のネットワーク委員の設置	・愛のネットワーク委員にて活動を実施していく	実施	→		愛のネットワーク委員が福祉委員としての活動に取り組んでいる
・民間事業所との交流	・愛のネットワーク委員と施設との交流を継続していく	実施	→		年に1回民生委員・社協長が施設訪問を実施しており、今後一人暮らしの自宅訪問も民生委員とともに実施を検討する

□世代間連携(交流)福祉 (高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・ボランティア活動への参加	・コミュニティだより・有線放送で活動の呼びかけをしていく	実施	→		コミュニティ委員と地域住民が参加し桜並木の手入れを行っている
・園児小中学生と高齢者の交流会	・地区での幼児は少ないが、高齢者との交流を実施していく	実施	→		地区の保育園運動会に参加し交流を図っている

□子育て支援・児童福祉 (子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・登下校時のあいさつ、声かけ運動	・月1回で登下校時、民生委員と実施していく	実施	→		登下校時、地区ごとにPTA、民生委員、社協で継続する
・ボランティア活動への参加	・地域住民有線放送、コミュニティだより、チラシで呼びかけていく	実施	→		桜並木や神社の清掃をボランティアと一緒に実施する
・ボランティアの学習会	・年1回野外研修を実施していく	実施	→		会食を含め各イベントへの参加を広報紙等を使って積極的に呼びかける

秋月地区社会福祉協議会 「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉 (身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・地域の行事や交流の場への参加	・月一回のサロン開催に呼びかけていく	実施	→		引き続き地域の方へサロンや行事に参加するように呼びかける
・障がいについての理解	・各行事に参加出来る方に呼びかけていく	実施	→		サロンにて中学生と共に車いすの講習会、年1回実施している
・ボランティア活動の推進	・地域住民に有線放送・コミュニティだより・チラシで呼びかけていく	実施	→		参加できる方は桜並木の清掃に積極的に参加し活動を呼びかけている

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保 (地域における住みやすいまちづくりの取り組み)

・防災マップづくり	・地域防災マップは作成済み	実施	→		行政、コミュニティ、区長、民生委員、地域で作成し、住民に配布し、今後有効活用している
・災害時における人員把握と支援体制づくり	・今後、支援体制づくりを作っていく	検討	→		コミュニティ、区長、民生委員、地域住民にて支援体制づくりを作成している
・移動手段の確保に向けた取り組みの継続	・「あいのリタクシー」を推奨していく	実施	→		今後、利用者が増えるように呼びかけを継続する

安川地区社会福祉協議会 第2期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う めくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会
Asakura City

安川地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	1, 6 9 4 人
②	世 帯 数	6 7 1 世帯
③	6 5 歳 以 上	7 1 3 人
④	7 5 歳 以 上	3 7 1 人
⑤	高 齢 化 率	4 2. 1 %

⑥	少 子 化 率	7. 9 %
⑦	行 政 区 数	1 0 区
⑧	民 生 児 童 委 員 数	8 人
⑨	福 祉 委 員 数	0 人
⑩	ネ ッ ト ワ ー ク 委 員	0 人

平成 31 年 1 月 31 日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認の実施	・ 長期入院者のお見舞を実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 民児童委員による要援護者の把握に努めている
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（配食 8 回）	・ 出前講座は、サロンや老人大学で活用
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（7 か所）	

■ 世代間連携福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・ 小中学校の P T A との懇談会の実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 伝統行事に積極的に参加するように呼びかけ
・ ボランティア活動の推進に努めている	
・ サロン活動に年 1 回中学生が参加	
・ 幼児と高齢者の交流会を実施	

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施	・ 出産祝い金、小学校入学祝い金贈呈事業を実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 秋月小学校にて学童保育を実施
・ ボランティア活動の推進に努めている	・ にここ広場をコミュニティセンターで月に 1 度実施
・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動の実施	・ 児童青少年育成活動を支援
（青補協活動）	

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 当事者団体への助成を実施	

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている	・ ボランティア団体への支援を実施
・ 災害時における人員把握と支援体制づくりの実施	・ 移動手段（市の乗合タクシー）の利用の呼びかけ
・ ボランティア活動の推進	
・ 愛のネットワーク推進の取り組み	
・ 福祉団体（グループホームの運営委員）との連携	

安川地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)

・ほのぼの配食及び会食会のボランティア活動の推進	・町民へ広く呼びかけて、ボランティアを募る	実施	→	8班に編成して活動を行っている。各区の区会長さんに募集の依頼をして、現在111名の会員が登録されている
・ボランティア育成の推進(学習会)	・リーダー育成のための学習会を開催していく	実施	→	配食リーダー、ボランティア会員と民生委員との学習会を行う
・サロンの継続的な実施の推進を図る	・サロンリーダー会を開催し情報交換会を行っていく	実施	→	引き続き情報交換会を実施する(マンネリ化防止等の対策を行う)
・65歳以上の一人暮らしの方への、餅を配布	配布食数80食(30年12月＝町民もちつき大会)実施	実施	→	引き続き実施する

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場への参加	・町民や老人会へ参加の呼びかけていく	実施	→	地域のイベントには世代を越えて参加している(体育祭・夏祭り・ウォーキング大会・文化祭など)

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・ボランティア活動への参加	・広報紙や呼びかけを行い参加者を増やしていく	実施	→	コミュニティだより等で、ボランティア活動への参加を呼びかける
・ボランティア活動へ参加できるような環境づくり	・各種団体へ参加の呼びかけを行っていく	実施	→	子育て支援事業の「にここ広場」では、主任児童委員、センター職員を中心に進めていき女性の民生委員さんにも協力を得て実施する
・子育て支援	・子育て支援を継続していく	実施	→	出産祝い金と小学校入学祝い金を贈呈し、子育て支援を行っている

安川地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)

・障がい者の組織や活動状況等の把握	・活動状況等の把握に努めていく	実施	→	障がい者組織との会合を開催し情報交換等を行う

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取組み)

・防災・福祉マップづくりにより活動の推進	・各区の防災組織を年度ごとに、更新していく	実施	→	防災・福祉マップを参考に、各区ごとに避難訓練やマップ更新を2年に1回行っている
・災害時における人員把握と支援体制づくり	・各区ごとに、区会長・組長さん等を中心に組織づくりはできている	実施	→	区全体で防災訓練(避難所までの経路や消火訓練)事例等を参考に実施し、反省事項等を把握する。人員把握等の体制づくりを行う

甘木地区社会福祉協議会 第2期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会
Asakura City

甘木地区

〈混在調和型〉

新旧住民が混在した状態となっていて、地域福祉活動が再調整されなければならない段階に達している地区

①	人 口	9, 7 2 1人
②	世 帯 数	4, 3 1 7世帯
③	6 5 歳 以 上	2, 8 2 3人
④	7 5 歳 以 上	1, 4 6 3人
⑤	高 齢 化 率	2 9. 0%

⑥	少 子 化 率	1 3. 6%
⑦	行 政 区 数	3 1区
⑧	民生児童委員数	2 3人
⑨	福 祉 委 員 数	0人
⑩	ネットワーク委員	5 5人

平成 31 年 1 月 31 日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認の実施	・ ボランティア活動に参加できる環境づくりに努めている
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ ボランティア育成の推進（学習会）を実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（配食 7 回）	・ 民児委員による要援護者の把握を随時実施
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（15 か所）	

■ 世代間連携福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施
・ ボランティア活動の推進に努めている
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加と呼びかけ
・ 小中学校との連携を実施

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施
・ ボランティア活動の推進
・ 児童青少年育成活動を支援
・ 就学前児童の母親を対象とした子育て事業の実施

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施
・ 情報提供があれば、フレアス甘木で公示している

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている
・ 愛のネットワーク（配食に係る安否確認）の推進
・ ボランティア団体への支援を実施

甘木地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ほのぼの配食の配達ボランティアの不足	・世代交代が近づいているため、新しいボランティアをロコミ等で呼びかけていく	検討	実施	→	配食ボランティア(主に調理)の募集を行い、継続してほのぼの配食ができるよう取り組む
・福祉委員制度の設置	・26年度に設立し、27年に休会となったため、甘木地区での役割確立を目指す	検討	→	実施	地区内での具体的な活動内容を模索するとともに、モデル地区を設定し推進していく
・ふれあいいきいきサロンの新規設置	・サロンの周知をコミュニティだよりやサロンだより等を使って行い、区会・老人クラブとの連携を図り新規開設に向けて取り組む	実施	→	→	引き続きサロン未設置の町への呼びかけをコミュニティだよりとともにサロンだよりを発行し推進する
・出前講座を活用し研修の開催	・県や市の出前講座を利用し、配食ボランティアのスキルアップを図っていく	実施	→	→	今後も引き続き研修会を開催する

□世代間連携(交流)福祉（高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業）

・地域の行事や交流の場への参加者数の減少	・世代間交流の場としてふれあいいきいきサロンの推進を図る	検討	実施	→	サロンに参加してもらうようにコミュニティだよりやサロンだよりを使って広報を行う

□子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・児童青少年育成活動の継続推進	・育成補助金を継続して支給できるように予算維持を働きかけていく	実施	→	→	毎年、地区内の小学校、幼稚園、保育園を対象とした育成補助金交付を行っている

甘木地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□障がい者福祉（身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス）

・地域の行事や交流の場への参加	・区会長や民生委員と連携し、現状把握を行うとともに、コミュニティだより等を使って周知を図っていく	検討	→	実施	現状を把握して、地域行事への参加が増えるように取り組んでいく

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・隣近所における要支援者の把握	・市の防災マップに基づき、区会長・民生委員・福祉委員と連携し、要支援者の把握を行っていく	検討	→	実施	要支援者を把握し、各区で福祉マップの作成に取り組んでいく
・災害時における人員把握と支援体制づくり	福祉マップの作成時に支援体制についても協議を行っていく	検討	実施	→	各区の協力を得て支援体制づくりを図る

馬田地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う めくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会
Asakura City

馬田地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	4, 253人
②	世 帯 数	1, 675世帯
③	65歳以上	1, 284人
④	75歳以上	651人
⑤	高 齢 化 率	30.2%

⑥	少 子 化 率	13.5%
⑦	行 政 区 数	8区
⑧	民生児童委員数	9人
⑨	福 祉 委 員 数	45人
⑩	ネットワーク委員	36人

平 31 年 1 月 31 日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認の実施	・ ボランティア育成の推進（学習会等）を実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 福祉委員を設置
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（年5回）	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（19か所）	・ ボランティア団体やサロンで出前講座を活用

■世代間連携福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 小中学校との連携（祖父母学級等）を実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	
・ ボランティア活動の推進に努めている	
・ ふれあい・いきいきサロン（夏休み交流会）への参加	
・ 幼稚園・保育所・老人クラブで交流会を実施	

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施	・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動を実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 就学前の児童と母親を対象とした子育て事業を実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 学童保育の実施
・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり	
・ ボランティア活動の推進に努めている	

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 地域の行事や交流の場（施設の行事等）への参加	
・ 施設内でのボランティア活動へ参加	
・ 施設の行事等に参加することで障がいについての理解に努めている	

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている	・ 安心ネットワークの推進（情報交換会を開催）
・ ボランティア活動の推進（広報紙等の活用）	
・ 愛のネットワークの推進（情報交換会を開催）	
・ 福祉団体との連携（施設等との連携）を実施	
・ ボランティア団体への支援を実施	

馬田地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)					
・ボランティア活動への参加の促進	・ロコミ呼びかけを中心に広報紙を利用し、参加者確保と増加を図っていく	実施	→		ボランティア会員による呼びかけと広報紙を活用し活動を紹介することで、アピールし活動に関心を持ってもらうことから取り組んでいる
・ほのぼの配食及び会食会の衛生面の確保	・衛生面の備品の確保と、設備の更新を市へ継続依頼していく	実施	→		衛生面での個人への資材(帽子・手袋・エプロン)と調理室専用の靴への購入援助を実施している。調理室入り口の除菌効果を確保できる器具等の確保を行う
・ふれあいいきいきサロンの参加者増員	・サロン開催の案内を広報紙等利用で行い、参加者の確保を図っていく	実施	→		地区広報紙「やまびこ」を活用し、サロン紹介と活動状況の報告を行い参加者確保と新規参加者の掘り起こしを行う
・ボランティア育成の推進(学習会等)充実	・区から地区へを中心にボランティア育成の推進活動を行う	実施	→		各区のボランティア参加者の声掛けで、(新規)参加者を確保していくよう取り組みを図っている
・福祉委員制度の推進	・福祉員の周知徹底を図り、民生委員との連携をすすめていく	実施	→		各区の福祉員の存在を認知していただくと共に、担当者の意識付を図り民生委員との連絡がスムーズに取れる環境づくりを行う

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・ボランティア活動への参加と推進を図る	・子供と高齢者が一緒に活動できるような事業を検討していく	実施	→		幼稚園・保育所・老人クラブでピクニック(約100名)を年1回開催している。子供会和老人会の共同活動として、各区のお宮・公民館の清掃等をまず始められるよう働きかける
---------------------	------------------------------	----	---	--	---

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・登下校時のあいさつ、声かけ運動	・日頃のあいさつ活動を始めていく	実施	→		毎月の声かけ運動と併せ、声かけする事により顔を覚え、何処でも何時でも気軽に声かけられる環境づくりに取り組む
・ボランティア活動の推進	・ボランティア活動内容の紹介とアピールを行っていく	実施	→		来夢文庫(読み聞かせ)2~3か月に1回開設し保育園、幼稚園、小学校に知らせるとともに有線放送にて周知する
・学童保育員不足	・学童保育員の増員を考えていく	検討	→	実施	学童保育所が新築改築され、スペースも広がったがそれ以上に利用する学童が増える可能性があり、対応できる学童保育員の人員不足が生じる可能性があり対応が必要である

馬田地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・ボランティア活動推進の充実	・障がい者施設よりボランティア活動への参加を呼びかけていく	実施	→		現在障がい者施設の方と少年環境パトロール隊(馬田小学校4年生以上)が活動日に一緒に参加して、ポイ捨てゴミの収集活動をして頂いているので、これを継続するとともに、地域との連携を模索する。情報の共有を図る
□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)					
・福祉マップづくり	・検討課題のままなので、計画段階へのアプローチを行っていく	検討	→	実施	コミュニティ協議会にて防災マップの見直しを検討されているため、福祉マップについても併せて作成していく
・災害時における人員把握と支援体制づくり	・各区の隣組組織の協力を得て支援体制づくりを図っていく	検討	実施	→	隣組組長(班長)を中心に、日頃の声掛けを密にする
・愛のネットワーク推進の充実	・愛のネットワーク会議を年2回開催で情報交換を行う	実施	→		隣組組長が「おたすけキット」の設置を推進する

立石地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

立石地区

〈混在調和型〉

新旧住民が混在した状態となっていて、地域福祉活動が再調整されなければならない段階に達している地区

①	人 口	10,513人
②	世 帯 数	4,049世帯
③	65歳以上	2,420人
④	75歳以上	1,070人
⑤	高 齢 化 率	23.0%

⑥	少 子 化 率	17.0%
⑦	行 政 区 数	9区
⑧	民生児童委員数	13人
⑨	福 祉 委 員 数	12人
⑩	ネットワーク委員	0人

平成31年1月31日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・隣近所への声かけや安否確認を実施	・ボランティア活動に参加できるような環境づくり
・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ボランティア育成の推進（学習会）を実施
・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・定期的にあいさつ運動を行っている
・ほのぼの配食及び会食会を実施（年8回）	・福祉委員制度の設置（各地区より1名以上）
・ふれあい・いきいきサロンの設置個所（4か所）	・民児委員による要援護者の把握に努めている

■世代間連携福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・小中学校と連携し活動を実施
・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・伝統行事に参加するよう呼びかけ
・ボランティア活動の推進に努めている	
・ふれあい・いきいきサロンへの参加と呼びかけを実施	
・幼児と高齢者の交流会（立石保育所）を実施	

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施	・防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動
・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・児童青少年育成活動を実施している
・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・就学前児童の母親を対象とした子育て事業の実施
・ボランティア活動に参加できるような環境づくり	・子育てサロンを月2回実施
・ボランティア活動の推進に努めている	

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施
・地域での交流の場への参加と呼びかけを実施
・身体障害者福祉協会会員の勧誘を随時実施
・

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・防災マップを作成
・災害時における人員把握と支援体制づくり
・ボランティア活動の推進している
・愛のネットワーク（向こう三軒両隣運動等）の推進
・ボランティア団体への支援を実施

立石地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)					
・ひまわり配食時に民生委員、福祉委員が隣近所への声かけや安否確認(高齢者見守り活動)	・朝倉市の状況を確認しながら、対応を検討していく近年自然災害が多発している、住民の意識もかなり変わってきたこれを良い機会として周知の方法を工夫していく	実施	→		民生委員・福祉委員・・・年8回配食活動時における声かけと状況に応じ、月1回以上の安否確認を実施する。広報紙の配布時に声かけをする
・敬老会など地域の行事や交流の場への参加と呼びかけ	・地域行事の参加への呼びかけを行う立石千鶴会未加入者については、区ごとの対応で取り組んでいく	実施	→		回覧板を積極的に活用する アパート等で回覧板を利用できない場合は、掲示板に貼り出すことで周知を図る
・ひまわり配食事業で活動するひまわり会員 ひまわり配食数増加によるボランティアスタッフ不足	・スタッフ不足については、決定的な有効手段はないが、引き続き募集を行っていく	実施	→		コミュニティにより、配食サービスの内容のPRとスタッフ募集の呼びかけを行う ひまわり会のスタッフがそれぞれの人脈を通じているような機会を捉え、スタッフへの募集を呼びかける
・高齢者サロン活動のボランティア、スタッフの不足	・サロン活動の内容を広くPRしていく	実施	→		地域が協力し支え合っていく。これとは別に、区の実績に応じて応援メンバーを加えていくようにする

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけし、地域人材の育成	・老人会(千鶴会)、PTAなど広く参加協力を呼びかけていく	実施	→		昔ながらの行事、一例として左義長がある。区と親子会が実行委員となり小さい子ども、老人が毎年一度の恒例行事として盛り上がっている。こうした地域行事で、実施していない区にも広げていくこととする
・立石地区通学合宿事業におけるボランティア活動への参加(地域の中での見守り体制の確立)	・各団体の代表者を通じて参加を呼びかけるとともに、活動の内容についてPRしていく	実施	→		コミュニティだよりなどでのPRを行う
・保育園・小学校との連携	・保育園、小学校との連携に併せて、地域住民への呼びかけと協働実施等を図っていく	実施	→		コミュニティ事務局がコーディネーターとして調整を行う
					※実例として 青少年活動(通学合宿等)でのボランティア活動促進 老人クラブ(千鶴会)との交流会、立石保育園(年間4回)立石小学校(農事指導3回)

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・子育て広場におけるスタッフの確保	・実際に利用している保護者に対して、参加を要請する輪が広がっていくように協力を依頼していく	実施	→		広報紙を利用して、ボランティア活動への理解を深めてもらい、スタッフへの参加をよびかけていく。子育て広場OBがスタッフとして活動できるような仕組みをつくる
・けん玉道場や夏のワークショップなどの多方面での青少年育成活動の推進	・楽しい活動をしていることをPRしていく	実施	→		各行事、イベント等の実施時に参加を呼びかける 参加者が多数いるので、その輪を広げていくようにする

立石地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・障がい者の組織や活動状況等の把握	・個人情報保護を念頭において、当該組織の活動内容を把握していく	実施	→		身体障がい者福祉協議会立石支部の総会後に、コミュニティ協議会へ毎年事業報告や年度計画の資料を提出してもらうことで活動状況等を把握する
・ボランティア活動の推進	・講座の開催、広報紙(コミュニティだより)の活用を図っていく	実施	→		誘いあえる範囲内でボランティアへの参加を促す
・地域での交流の場づくりの適切な実施	・障がいのある人に対しても、行事等への参加を呼びかけていく。また、保護者等家族との意見交換の場を広げていく	実施	→		障がい者の実態は完全に把握できていない面があるが、行事等の参加については、引き続き回覧等を通じて呼びかける

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)

・自然災害に備えて地域住民相互の活動	・「立石地区防災対策ガイド」を作成し、全戸配布したので、これをもとに我が家の避難地図を作成する	実施	→		個人情報保護という大前提のもとに、自分から声をあげ必要な支援を求め、上にあげていく形で、最終的な要支援者リストの作成にまで進める
・防災体制の構築	・自主防災組織の防災業務計画を作成する	実施	→		自主防災組織そのものはコミュニティの中で立ち上げているが、まず基本情報の収集及び連絡体制づくりについて、各区ごとに取り組んでいく。防災業務計画に基づく、避難訓練や連絡体制の構築を図る

福田地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会
Asakura City

福田地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人	口	2,608人		
②	世	帯	数	1,053世帯	
③	6	5	歳	以上	939人
④	7	5	歳	以上	464人
⑤	高	齢	化	率	36.0%

⑥	少	子	化	率	10.6%				
⑦	行	政	区	数	9区				
⑧	民	生	児	童	委員	数	7人		
⑨	福	祉	委	員	数	23人			
⑩	ネ	ッ	ト	ワ	ー	ク	委	員	0人

平成31年1月31日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・隣近所への声かけや安否確認を実施	・ボランティア活動に参加できるような環境づくり
・ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	・定期的なあいさつ運動の実施
・ほのぼの配食及び会食会の充実（配食5回）	・福祉委員を設置
・ふれあい・いきいきサロンの設置個所（8か所）	・民児委員による要援護者の調査を随時実施
・長期入院者のお見舞いを実施している	

■ 世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・小学校で年2回交流会を実施
・ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	
・ボランティア活動の推進に努めている	
・ふれあい・いきいきサロンの参加を呼びかけている	
・幼児と高齢者の交流会（保育所で年1回）を実施	

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施	・防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動の実施
・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・小学校入学祝い金の贈呈
・ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	・学童保育の実施
・ボランティア活動に参加できる環境づくりに努めている	・コミュニティセンターで子育てサロンを実施
・ボランティア活動の推進に努めている	

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	
・ボランティア活動の推進に努めている	

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・隣近所における要支援者の把握を福祉委員が行っている
・ボランティア活動の推進に努めている
・愛のネットワーク推進の取り組み
・福祉団体との連携の取り組み
・ボランティア団体への支援を実施

福田地区社会福祉協議会 「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

☐高齢者福祉 (高齢者を対象とする福祉サービス)

・ほのぼの配食のボランティア活動の継続	・野の花会メンバーの協力で友人・知人の呼びかけしていく	実施	→		野の花会による配食づくりを年5回実施しており、呼びかけを行っている
・ほのぼの配食会の継続	・利用者を増やすように呼びかけを図っていく	実施	→		民児委員による配食づくりの手伝いと配達を継続して実施している
・ふれあいいきいきサロンの継続	・コミュニティだよりなどの広報紙によりサロン活動の周知を図っていく	実施	→		サロン代表者会を定期的に行い、ふれあいいきいきサロンが継続できるように取り組む
・福祉委員制度の推進	・福祉委員の意識啓発を行い活動を継続していく	実施	→		高齢者の一人暮らしや二人暮らしへの訪問を月2回実施している
・高齢者への福祉活動	・高齢者への支援活動を継続していく	実施	→		長期入院(6か月以上)、入所者へのお見舞い(1回のみ)。長寿者(95歳以上)の方へのお祝い(毎年)実施している

☐世代間連携(交流)福祉 (高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場への参加	・広報紙で参加の呼びかけを行っていく	実施	→		文化祭や、歩こう会などの実施に合わせて広報紙や声かけで参加を呼びかける
・ふれあいサロンでのお年寄りとの交流会	・サロン代表者会において交流会を開催し交流会を進めていく	検討	→	実施	7か所中2か所の実施のため、交流会開催に向けて推進を行う
・保育所とのいきいき交流会	・保育所とのいきいき交流会を継続していく	実施	→		民児委員と保育所との交流会(6月)、遊具工作、遊戯会、寸劇会など実施している
・小学校とのいきいき交流会	・小学校とのいきいき交流会を継続していく	実施	→		民児委員と小学校との交流会(5月・10月)野菜苗植え、野菜種まき(小学校1年～3年生)の実施している

福田地区社会福祉協議会 「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

☐子育て支援・児童福祉 (子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・子どもたちの参加	・多くの参加者を募集するために広報紙で参加の呼びかけを行っていく	実施	→		おはなしクラブ 夢の卵の活動(月1回の読み聞かせ)を実施している
・ボランティア活動への参加	・子育てサロンのボランティア活動の参加を広報紙で呼びかけを行っていく	実施	→		子育てサロン(月1回平日の午前中)を実施している
・子育て支援	・子育て支援として、お祝いの贈呈を継続していく	実施	→		小学校の新1年生に対して入学祝(図書カード)を贈呈を行っている

☐障がい者福祉 (身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)

・地域での交流の場づくり	・地域住民との連携を図り情報収集を行っていく	実施	→		広報紙で交流の場へ参加の呼びかける

☐住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保 (地域における住みやすいまちづくりの取組み)

・生活支援体制整備事業における第2層協議体を立ち上げと取り組み	・地域見守り隊を組織して活動を行っていく	実施	→		参加団体は地域見守り隊(区会長、民生員、福祉員)の構成団体として活動している、また参加団体をどこまでにするかについて協議を行う
・福祉に係る人材の育成(福祉委員会)	・市の出前講座、地域包括支援センター、朝倉市社協、派出所などに講話をお願いし人材の育成を行う。併せて視察研修を行っていく	検討	→	実施	福祉委員会の定例会において研修などを実施(2月、4月、6月、8月、10月、12月)していく
・福祉マップづくり	・今後防災マップに基づき、各地区で福祉マップの作成を行っていく	検討	→	実施	各区で協議しながら、福祉マップの作成に取り組む
・災害時における人員把握と支援体制づくり	・各区の隣組組織の協力を得て支援体制づくりを行っていく	検討	→	実施	福祉マップの作成に合わせて人員把握と支援体制をつくる実践的な防災活動に取り組んでいく

蜷城地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

蜷城地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	1, 7 0 5 人
②	世 帯 数	6 2 0 世帯
③	6 5 歳 以 上	6 7 6 人
④	7 5 歳 以 上	3 6 3 人
⑤	高 齢 化 率	3 9 . 6 %

⑥	少 子 化 率	8 . 7 %
⑦	行 政 区 数	1 7 区
⑧	民生児童委員数	6 人
⑨	福 祉 委 員 数	0 人
⑩	ネットワーク委員	2 4 人

平成 31 年 1 月 31 日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認の実施	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	
・ ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（配食 23 回）	
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（6 か所）	

■世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・ 小学校との連携を実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	
・ ボランティア活動の推進に努めている	
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加と呼びかけを実施	
・ 小学生・幼児と高齢者の交流会	

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施	・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動の実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 就学前の児童と母親を対象とした子育て事業の実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 子育てサロンの推進
・ ボランティア活動に参加できる環境づくりに努めている	
・ ボランティア活動の推進に努めている	

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 障がい者の把握ができない状況にある	

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・ 福祉マップづくり（一人暮らし、二人暮らし）
・ 災害時における人員把握と支援体制づくり
・ ボランティア活動の推進を図っている
・ 愛のネットワークの推進に努めている
・ ボランティア団体への支援を実施

嵯峨地区「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉 (高齢者を対象とする福祉サービス)					
・ほのぼの配食及び会食会のボランティアの高齢化	・若い世代のボランティア意識の希薄さがあるため、意識の高揚を図るため、各種会合等を利用し募集を行なう	実施	→		千歳会年々高齢化しており、若い世代(20~40歳)に対し本事業の目的を十分に理解してもらうため、各種ボランティア団体の会合等で参加を呼びかけている
・ボランティア活動に参加できるような環境づくり	・ボランティア活動の研修会、講演会等を実施していく	実施	→		各種ボランティアが高齢化しているため、同じ人が複数の団体に活動している。この人達の負担を少しでも軽減するため若い世代に対しボランティア意識を広める
□世代間連携(交流)福祉 (高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)					
・ふれあいいきいきサロンへの幅広い年齢層の参加	・園児・児童・生徒の数が年々減少しているため、幅広い世代へ参加の呼びかけを実施していく	実施	→		広報紙や有線放送、ロコミにより参加を呼びかけると共に、サロン未設置地区に対し積極的にサロン設置に向けて呼びかけを行う
□子育て支援・児童福祉 (子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)					
・ボランティア活動推進の更なる充実	ボランティア活動を広報紙、有線放送を使って積極的に推進していく	実施	→		就学前の児童を対象としたびよび広場(読み聞かせ、お話し会)を月2回実施しているが、若い世代が少ないことから後継者育成に努めている
□障がい者福祉 (身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・地域での交流の場づくり	各種会合等への積極的に広報紙や有線放送で参加を呼びかけていく	実施	→		地区での障がい者について理解を深めるような研修会を開催している

嵯峨地区「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保 (地域における住みやすいまちづくりの取り組み)					
・災害時における人員把握と支援体制づくり	各区の区会長、民生委員、隣組長を中心に自主防災組織を再編する	実施	→		コミュニティにおいて自主的な組織づくりを行い訓練等を実施する
・福祉マップづくり	今後、自主的な組織づくりに併せて要支援者の把握と支援体制を作成していく	検討	実施	→	各地区で防災マップを活用し福祉マップの作成に取り組んでいく

金川地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

金川地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人口	2,859人
②	世帯数	1,112世帯
③	65歳以上	997人
④	75歳以上	507人
⑤	高齢化率	34.9%

⑥	少子化率	11.2%
⑦	行政区数	7区
⑧	民生児童委員数	8人
⑨	福祉委員数	0人
⑩	ネットワーク委員	29人

平成31年1月31日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・隣近所への声かけや安否確認の実施	・ふれあい・いきいきサロンの設置個所（4か所）
・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ボランティア育成の推進（学習会）を実施
・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・定期的なあいさつ運動の実施
・ほのぼの配食及び会食会の実施（配食6回・お楽しみ会6回）	・民児委員による要援護者の調査を随時実施

■世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・小中学校との連携を実施している
・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	
・ボランティア活動の推進に努めている	
・ふれあい・いきいきサロンへの参加を呼びかけ	
・幼児と高齢者の交流会を実施している	

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施
・ボランティア活動に参加できるような環境づくり
・ボランティア活動の推進に努めている
・防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動を実施
・就学前の児童と母親を対象とした子育て事業の実施

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・コミュニティだよりにて情報提供を行っている
・ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	
・障がいについての理解に努めている	
・ボランティア団体への勧誘を行っている	
・地域での交流の場づくり（夏祭りなど）	

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・隣近所における要支援者の把握に努めている	・ボランティア団体への支援を行っている
・災害時における人員把握と支援体制づくり	
・ボランティア団体への入会を推進している	
・愛のネットワークの推進に努めている	
・福祉団体との連携（ボランティア団体や身障協）	

金川地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉 (高齢者を対象とする福祉サービス)					
・隣近所への声かけや安否確認の充実	・見守活動には、努力と地域内の連携の強化を図り、指導者ボランティアの育成を行っていく	実施	→		民児委員による安否確認、また要支援者の調査を随時行い定期的な活動を実施して一人暮らし高齢者の具体的な見守支援の強化に努める
・ほのぼの配食及び会食会の会費検討	・会費は無料としているが、今後有料化に向けて検討していく	実施	→		地区社協の運営で配食は年々増加傾向にあり、動向をみながら調整する(配食6回、お楽しみ3回)、配食は1人暮らし70歳、二人暮らし75歳 お楽しみ会は一人暮らし、二人暮らし70歳対象
・ふれあいいきいきサロンの指導者等不足	・指導者、ボランティアの育成に努めていく	実施	→		各地区ボランティアの高齢化が進み、若い人材の確保を指導者から呼びかける
・交流の場への参加	・広報紙(コミュニティだよりを発行)を活用し、地域住民へ参加の呼びかけを行っていく	実施	→		高齢化のニーズに合うような事業の見直しを提案し、会員からの呼びかけをすすめる
・福祉委員の設置に向けた検討	・各地区において福祉委員を設置し「生きがいづくり」を進めるための意識啓発を図っていく	検討	→	実施	高齢者が地域を支えるボランティアと一緒に検討し取り組んでいく

□世代間連携(交流)福祉 (高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場への若者の参加と交流づくり	・世代間の交流と健康づくりやイベント内容の見直し検討していく	実施	→		竹灯笼・ホテル祭り、夏祭り、グランドゴルフ大会(三大事業)、年々若者の参加も増え、他地区との交流も多く、小中学生も多く参加している
・ボランティア活動への参加	・広報紙の活用、指導者からの呼びかけを行っていく	実施	→		地域ボランティア団体との連携により会員による呼びかけを行う。また活動内容によっては広報紙に掲載し周知を行う

□子育て支援・児童福祉 (子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・地域の行事や交流の場、ボランティア活動への参加	・幼児、児童が参加できるような環境づくりに努めていく	実施	→		就学前の児童と母親を対象とした子育て支援が、児童委員指導のもと実施している(年8回、きらきら学級)
・ボランティア活動への参加	・保育所、PTA、少年スポーツ団との連携による情報の共有化を図っていく	実施	→		各スポーツ少年団(剣道、空手)への助成支援、竹灯笼祭り、夏祭り、グランドゴルフ大会を行う

金川地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉 (身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・地域での交流の場づくり	・地区行事の呼びかけと地域住民との連携を図り、対象者の情報収集に努めていく	実施	→		障がい者福祉協会の代表者への交流の場づくりへの参加を呼びかけている。他地区からの参加者もあつている(竹灯笼、ホテル祭りに於いての提案)
□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保 (地域における住みやすいまちづくりの取り組み)					
・福祉マップづくり	・地区においてシミュレーション検討を行い、福祉マップづくりを進めていく	検討	実施	→	地区の災害時における人員把握や支援体制作り、福祉マップ、災害の備えの計画などについて協議を行い取り組んでいく

三奈木地区社会福祉協議会 第2期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会
Asakura City

三奈木地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	3, 160人
②	世 帯 数	1, 267世帯
③	6 5 歳 以 上	1, 267人
④	7 5 歳 以 上	674人
⑤	高 齢 化 率	40.1%

⑥	少 子 化 率	10.1%
⑦	行 政 区 数	14区
⑧	民生児童委員数	9人
⑨	福 祉 委 員 数	88人
⑩	ネットワーク委員	104人

平成31年1月31日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認を実施	・ ボランティア育成（学習会等）の開催
・ ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	・ 介護施設入所者への訪問活動を月1回実施
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（配食12回、会食1回）	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ふれあい・いきいきサロンの設置箇所（7か所）	・ 福祉委員を設置
・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施

■ 世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・ 小学6年生と中学1年生の希望者で実施している
・ ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	
・ ボランティア会員の勧誘を随時実施	
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加と呼びかけ	
・ 幼児と高齢者の交流会（ほのぼの配食会）	

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動を実施	・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動を実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 就学前の児童と母親を対象とした子育て事業を実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 学童保育の実施
・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり	
・ ボランティア活動の推進に努めている	

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけ
・ ボランティア活動への参加と呼びかけ
・ 地域での交流の場づくりを行っている

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている
・ ボランティア活動の推進を随時実施
・ 愛のネットワークの推進を随時実施
・ ボランティア団体への支援を実施

三奈木地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)					
・ボランティア活動への意識が希薄	・コミュニティだより、有線放送などで広報に努めていく	実施	→		随時、地区広報紙(コミュニティだより、福祉だより)、有線放送等で活動の呼びかけを行う。愛のネットワーク活動として、新聞配達所や郵便局やコンビニなども構成員となっている
・ほのぼの配食及び会食会の配食数が減少	・昼間、70歳以上の一人暮らしの方等への勧誘を行っていく	実施	→		うぐいすの会員を中心に、「うぐいす弁当」の活動について対象者への周知を図る
・ボランティアの参加者	・参加者が少ないのでコミュニティだより、有線放送などで呼びかけを行っていく	実施	→		随時、地区広報紙(コミュニティだより、福祉だより)また、有線放送を活用し参加者の募集に努める
・福祉委員制度の充実	・毎年、福祉委員が交代するので活動が充実していない状況となっている	実施	→		今年度の研修会で、制度の理解及び活動促進の充実への協力をお願いする。福祉委員の任期2年(区会長)を検討する。また、福祉研修会の開催数を増やす

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・ボランティア活動への参加者	・参加者が増えるようにボランティア会員による勧誘を行っていく	実施	→		現在7地区の活動状況の紹介や支援者の呼びかけを行っている。(新規サロンの設置予定は、今のところはない、責任者がいない)また、小中学生の参加を呼びかける
----------------	--------------------------------	----	---	--	---

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・登下校時のあいさつ・声かけ運動	・実施しているが、回数が少ない	実施	→		PTA・民生児童委員・老人クラブ・防犯パトロール等の活動を通じて、呼びかけを実施している(月1回それぞれの団体が行う)
・地域の行事や交流の場への参加	・広報紙(コミュニティだより2か月に1回)、有線放送等を通じて参加者を増やすように努めていく	実施	→		各イベント(はたる祭り、運動会、夏祭り)の内容の見直しを行い、参加者が増えるように呼びかけを行っている(行事が同時期に重なった行事もあったため、行事を見直して重複しないようにする開催時期の検討)
・ボランティア活動に参加できるような環境づくり	・小学校、親子会との連携を密に行っていく	検討	→	実施	各イベントの実行委員会へ参加することにより、地域活動への積極的な関わりを求めている。企画段階での参画しやすい環境づくりを図っていく

三奈木地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・地域の行事や交流の場への参加	随時、地区広報紙(コミュニティだより、福祉だより)、新たに有線放送を活用して参加者が増えるように努めていく	実施	→		ホテルの里イベントで、きらら荘の協力により疑似体験コーナーを設けて、参加に呼びかけている(車いすの動かし方などを学ぶことで、障がいの啓蒙を行う)

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)

・福祉マップづくり	・防災マップを基にして、一部の地域で福祉マップを作成していく	実施	→		現在、ゼンリン地図を活用し一部の民生委員で福祉マップの作成に取り組んでいる
・災害時における人員把握と支援体制づくり	・福祉マップづくりに合わせて、各地区で協議を行い支援体制づくりを行っていく	実施	→		福祉マップの作成に合わせて人員把握と支援体制をつくり、実践的な防災活動に取り組んでいる
・全体的にボランティア会員の不足	・広報紙(コミュニティだより、福祉だより)などを通じて呼びかけ会員を増やしていく	実施	→		随時、地区広報紙(コミュニティだより、福祉だより)、新たに有線放送を活用して会員増加に努める

美奈宜の杜地区社会福祉協議会 第2期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う めくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

美奈宜の杜地区

〈新規形成型〉

新規定住地区であり、地域福祉活動が新しく
形成・展開しつつある地区

①	人 口	6 6 3 人
②	世 帯 数	3 3 1 世帯
③	6 5 歳 以 上	3 8 8 人
④	7 5 歳 以 上	1 8 3 人
⑤	高 齢 化 率	5 8 . 5 %

⑥	少 子 化 率	6 . 6 %
⑦	行 政 区 数	6 区
⑧	民 生 児 童 委 員 数	3 人
⑨	福 祉 委 員 数	0 人
⑩	ネ ッ ト ワ ー ク 委 員	0 人

平成 31 年 1 月 31 日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認を実施している	・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 買い物に行く場合の移動手段の確保
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 住民懇談会等を通じてあいさつの励行を推進
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（配食 8 回）	・ 地域福祉ネットワークづくりに努めている
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（1 か所）	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施

■ 世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・ ボランティア活動への参加の呼びかけ
・ ボランティア団体の設立と参加呼びかけを実施
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加の呼びかけ

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 地域の行事や交流の場への参加
・ ボランティア活動への参加を実施（子ども神輿）
・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり
・ ボランティア団体の設立と参加呼びかけを実施

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 地域の行事や交流の場への参加呼びかけ
・ ボランティア活動への参加を促している
・ ボランティア団体の設立と参加呼びかけを実施

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている	・ 心配ごと相談等の窓口開設（地区社協への E メール 投稿窓口を開設）
・ ボランティア団体の設立と参加呼びかけを実施	
・ 住民間の支援互助活動（福祉餅つきなど）を実施	
・ 福祉団体（施設）と連携して活動	
・ ボランティア団体への支援を実施	

美奈宜の杜地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)					
・地域の行事や交流の場づくり	・街内外からの参加者増に対応した行事内容の見直しを行っていく	実施	→		参加者増に対応した会場、駐車場の確保を行う 行事の運営方法などを事前に十分検討し、事故防止に努める
・ボランティア活動に参加できるような環境づくり	・広報紙やサークル活動を通じて参加呼び掛けを継続していく	実施	→		ボランティア参加者の高齢化が進んでおり、若年層への勧誘を積極的に行う
・買い物に行く場合の移動手段の利便性向上	・買い物便のルート・時間帯等を再考していく	実施	→		地区の買い物便と、あいのり便、イオン便を総合的に考え利便性を向上させる
	・街内の移動手段を構築していく	検討	実施	→	街内の交通対策として「検討会議」を立ち上げ・検討を開始する
・各種講座の実施	・地域ニーズに合った企画講座の選定し開催していく	実施	→		時期に合った出前講座を実施する 地区内の人材の発掘と活用する

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場づくり	・世代を越えた行事内容への見直しを行っていく	実施	→		若年世代との交流の場(どんと焼き、ホテル祭り、夏祭り、文化祭)を考慮した行事内容にする
・ボランティア活動への参加	・各種広報紙による参加呼び掛けを継続していく	実施	→		若年世代(勤務者)が参加し易い活動内容・時間帯にする
・ふれあいいきいきサロンへの参加	・サロン会員によるロコミや広報紙による参加呼び掛けを継続していく	実施	→		参加呼びかけと、世話役ボランティアの育成を行っている

美奈宜の杜地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)					
・地域の行事や交流の場への参加	・親子・児童向けの企画を増やしていく	実施	→		各行事内容の見直しと、講座・教室を開催する
・ボランティア活動への参加とボランティア団体の設立	・各種広報紙による参加呼び掛けを継続していく	実施	→		地区内の人材の発掘と活用を図っている
□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・地域の行事や交流の場への参加	・行事内容の見直しと参加呼び掛けを行っていく	実施	→		行事等の会場づくりの中でバリアフリー化に取り組んでいる

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)

・福祉マップづくり	・自主防災活動と連携して進めていく	実施	→		・緊急連絡網の整備と要援護者の把握を行う
・災害時における人員把握と支援体制づくり	・福祉マップづくりに合わせて、支援体制づくりを行っていく	実施	→		・防災訓練等に合わせ災害時の体制づくりをすすめる
・関連組織との連携を継続していく	・地区内の関連組織との連携を継続していく	実施	→		・各組織や民生委員との定期的な情報交換を通じて、要支援者の把握強化する

高木地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

高木地区

〈伝統発展型〉

歴史的に集落ごとの地域福祉活動が熟しているが
時代に合わせた転換、調整も求められつつある地区

①	人 口	309人
②	世 帯 数	161世帯
③	65歳以上	188人
④	75歳以上	116人
⑤	高 齢 化 率	60.8%

⑥	少 子 化 率	1.9%
⑦	行 政 区 数	15区
⑧	民生児童委員数	6人
⑨	福 祉 委 員 数	0人
⑩	ネットワーク委員	0人

平成31年1月31日現在

●地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認を実施	・ 病院や買い物に行く場合の移動手段の確保
・ 地域への行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 介護施設入所者への訪問を年1回実施
・ ほのほの配食及び会食会の実施（配食3回）	・ 民間事業所との連携している
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（1か所）	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施
・ 長期入院者のお見舞いを年1回実施	・ 出前講座の活用

■世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加の呼びかけ

■子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動を実施

■障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 障がい者の把握ができていないため、事業は実施していない

■住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている
・ ボランティア活動の推進
・ 福祉団体（施設）と連携して活動

高木地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)					
・隣近所への声かけや安否確認の困難	・外泊時に隣人へ連絡をしていく	実施	→		市報配布時やほのぼの配食時に安否確認を行っている
・ふれあいいきいきサロンの新規開設	・サロンのリーダーとなる人がいない	検討	→	実施	30年4月黒川・佐田の老人クラブ解散により、高齢者の集う場所がないため黒川地区に1カ所のサロンを開催したいが、リーダーとなる人がいない
・長期入所者のお見舞いは、1年以上で実施	・継続して長期入所者のお見舞いを実施していく	実施	→		長期(1年以上)の入所者へのお見舞いを行う
・病院や買い物に行く場合の移動手段の確保	・甘木吉井線の通行止めについては、コミュニティよりバスを週1回運行している	実施	→		30年5月より週1回木曜日に予約制で病院・買物へのバスを運行している
・出前講座の活用方法	・地域ニーズに合った研修会を実施していく	実施	→		いきいきサロンを通じて出前講座を活用している

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場の参加案内	・災害により有線放送等が使えないので周知が出来なかったが、4月より連絡事項はSNSにて情報を発信していく	実施	→		・29年7月の災害により、地区の人口が減少し行事が出来ない状況にはあるが、今後引き続き事業を検討する
・ふれあいいきいきサロンへの参加呼びかけ	・現在の2カ所については、世話人が取りまとめている	実施	→		世話人がサロン参加の呼びかけをしているが、なかなか増えない状況にはあるが、参加の呼びかけを引き続き行っていく

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動の維持継続	・青パトによるパトロール(中学校区)を実施していく	実施	→		駐在所連絡協議会で情報交換を行う
--------------------------------	---------------------------	----	---	--	------------------

高木地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・地域の行事や交流の場への参加	・事業の見直し(実施内容)を図っていく	検討	→	実施	今後地区として取り組みに向けて検討する
□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)					
・福祉マップづくり	・福祉マップを作成しているが、災害により見直しを行っていく	実施	→		災害後、空家が多くなったので福祉マップの見直しを実施する
・災害時における人員把握と支援体制づくりの充実	・支援体制はあるが、実際には機能していないので、支援体制の在り方を検討していく	実施	→		人口減少と高齢化の為、災害時の支援体制がなかなかできない状況にある。今後の検討課題となる

朝倉地区社会福祉協議会 第 2 期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う ぬくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会
Asakura City

朝倉地区

〈合併展開型〉

合併前の別自治体での特性をもった地域福祉活動があって、合併後の体制を組みたてつつある地区

①	人 口	7, 8 5 1人
②	世 帯 数	2, 7 1 4世帯
③	6 5 歳 以 上	3, 0 5 3人
④	7 5 歳 以 上	1, 6 5 6人
⑤	高 齢 化 率	3 8. 9%

⑥	少 子 化 率	9. 8%
⑦	行 政 区 数	4 4区
⑧	民生児童委員数	2 2人
⑨	福 祉 委 員 数	0人
⑩	ネットワーク委員	0人

平成 31 年 1 月 31 日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認を実施	・ コミュニティバスの利用を促している
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	・ 福祉委員制度の導入検討
・ ほのぼの配食及び会食会の実施（会食 2 回）	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（7 か所）	・ 出前講座の活用

■ 世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施
・ ふれあい・いきいきサロンの参加と呼びかけを実施
・ 小中学校との連携（雑巾配布）

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動の実施	・ 新生児祝い金の贈呈
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 新一年生への黄色い傘の贈呈
・ ボランティア活動への参加と呼びかけを実施	
・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動を実施	
・ 朝倉東小学校、大福小学校で学童保育を実施	

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 障がい者の把握が出来ていない現状

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取り組み）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている	・ 各種団体事業（施設）との連携の実施
・ ボランティア活動の推進を行っている	・ コミュニティバスの利用を促している
・ 災害時における人員把握と支援体制づくり	・ 住宅火災見舞金
・ 愛のネットワークの推進に努めている	
・ 福祉団体（福祉ボランティア団体）との連携の実施	

朝倉地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)

・福祉員制度の導入	・福祉委員制度の導入を検討し、自治会と民生委員の連携・協働体制の強化を図っていく	検討	→	実施	まず情報提供・PRから始め、コンセンサスを果たすうえで、モデル地区での試行、地域への拡大とステップアップを進めたい
・在宅高齢者の安否確認、見守り	・ほのぼの会食会の開催時期、方法、頻度、実施に伴う負担軽減策などの見直し改善を行っていく	検討	実施	→	70歳以上の独居者を対象に、会食会を年2回実施しているが、より効果的なものとするために、運営方法全般の見直しを31年度中に行う
・通所による高齢者の交流の推進	・ふれあいいきいきサロン拡大による高齢者の交流促進と孤立化予防を推進していく(現行7サロン)	実施	→	→	生涯現役の地域特性、老人クラブ活動の低調から、新規開設が停滞した現状。中心となるリーダーの発掘と育成から進めたい
・ボランティア活動に対する支援	・ボランティア団体とコミュニティ、社協の連携を強化し、ボランティア活動に対する支援を充実させていく	検討	実施	→	コミュニティに開設予定の組織問題小委員会で、連携体制の強化について協議。その後具体的な取り組みを進めたい

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・朝倉地域内世代間交流の促進	・老人クラブやコミュニティへの連携を強化し、交流の活性化を図っていく	実施	→	→	ほのぼの会食会の主催や老人クラブ運動会などのイベントへ協力し、地域内における相互の交流強化を図る
・集落内世代間交流の促進	・ふれあいいきいきサロンの参加者拡大や集落内イベントを通じて、交流の活性化を図っていく	実施	→	→	ふれあいいきいきサロンは年4回発行するコミュニティ広報紙での呼びかけを行う。また、コミュニティによる地域活性化事業の有効活用を図る

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・児童の安全対策	・登下校時の声かけ運動、見守り活動の維持拡大を図っていく	実施	→	→	老人クラブ活動のなかで、見守り活動未実施地域への拡大呼びかけを行う。その他、休み期間中の夜間パトロール、新1年生へ黄色い傘の贈呈など現在の活動を継続する
・学童数の減少に対する対策	・朝倉地域定住促進策への協力を行っていく	検討	→	実施	交通や買い物など朝倉地域の生活利便性をPRし、地域外からの定住者呼び込みを図るとともに、地域の生活インフラの拡充を関係方面に訴えていく

朝倉地区社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	

□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)

・障がい者の把握と対応	・民生委員、区会長等の連携し、現状把握を進めていく	検討	→	実施	現状、手つかずの状態。福祉員制度の導入によって、地域の情報把握力を高め、適切な対応につなげていきたい

□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取組み)

・民生委員、児童委員との共働	・地域福祉の多くの部分を担う民生委員、児童委員と地域自治会、社協の協働体制を強化していく	検討	実施	→	福祉員制度の導入が最優先の課題。また、平成31年度一斉改選がスムーズに行えるよう、社協の立場から区長会、コミュニティに協力する
・福祉課題の見える化と共有化	・福祉マップによる地域福祉課題の抽出を行い、適切な対応につなげていく	検討	→	実施	福祉員制度導入に伴う改善の中で、福祉マップづくりを優先課題として取り組む
・災害時対応の強化	・今後予想される大規模災害(水害、台風、地震)への備えを充実させていく	実施	→	→	コミュニティの自主防災体制強化策に生活弱者救済の面から協力、推進する

杷木地区社会福祉協議会 第2期地域福祉活動計画

ともに認め合い 支え合う めくもりあるまちづくり

～朝倉市地域福祉活動計画から見えてきた、これからの福祉コミュニティ～

社会福祉法人朝倉市社会福祉協議会
朝倉市地区社会福祉協議会連絡会

Asakura City

杷木地区

〈合併展開型〉

合併前の別自治体での特性をもった地域福祉活動があって、合併後の体制を組みたてつつある地区

①	人 口	6, 4 5 4 人
②	世 帯 数	2, 6 9 6 世帯
③	6 5 歳 以 上	2, 4 3 4 人
④	7 5 歳 以 上	1, 2 3 8 人
⑤	高 齢 化 率	3 7. 7 %

⑥	少 子 化 率	9. 2 %
⑦	行 政 区 数	5 1 区
⑧	民生児童委員数	2 4 人
⑨	福 祉 協 力 員 数	1 3 6 人
⑩	ネットワーク委員	0 人

平成 31 年 1 月 31 日現在

● 地区における主な取り組み内容（事業・活動）

■ 高齢者福祉（高齢者を対象とする福祉サービス）

・ 隣近所への声かけや安否確認を実施	・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・ 介護施設入所者への訪問を実施している
・ ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	・ 定期的なあいさつ運動の実施
・ ほのぼの配食・会食会の実施（配食 7 回会食 1 回餅つき 1 回）	・ 福祉委員を設置
・ ふれあい・いきいきサロンの設置個所（36 か所）	・ 民児委員による要援護者の調査を随時実施

■ 世代間連携（交流）福祉（高齢者の生きがい活動を促進し、世代をこえた交流事業）

・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけの実施	・ 小学生を対象として交流会を実施
・ ボランティア活動への参加と呼びかけの実施	
・ ボランティア活動の推進に努めている	
・ ふれあい・いきいきサロンへの参加と新規設置	
・ 幼児と高齢者の交流会（各イベントや運動会など）	

■ 子育て支援・児童福祉（子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス）

・ 登下校時のあいさつ、声かけ運動の実施	・ 防犯パトロールによるあいさつ、声かけ、見守り活動を実施
・ 地域の行事や交流の場への参加と呼びかけを実施	・ 就学前の児童と母親を対象とした子育て事業を実施
・ ボランティア活動への参加を促している	・ 学童保育を実施している
・ ボランティア活動に参加できるような環境づくり	・ 新 1 年生へ黄色い傘を贈呈している
・ ボランティア活動の推進に努めている	

■ 障がい者福祉（身体、知的・発達、精神に障がいのある方への自立を支援する福祉サービス）

・ 視覚障がい者の方の買い物ボランティアが支援している	・ 障がいについての理解を深める研修会の開催を実施
・ サロンボランティアの方から参加の呼びかけを行っている	
・ 障がいについての理解に努めている（ねこの会活動）	
・ ボランティア活動の推進（ねこの会活動）	
・ 地域での交流の場づくり（ねこの会活動）	

■ 住民全般の安心・安全・地域生活条件（利便）の確保（地域における住みやすいまちづくりの取りくみ）

・ 隣近所における要支援者の把握に努めている	・ 福祉団体（ボランティア団体）との連携に努めている
・ ボランティア活動への参加を促している	・ ボランティア団体への支援を実施
・ 災害時における人員把握と支援体制づくり	・ 各種団体事業との連携に努めている
・ ボランティア活動の推進に努めている	
・ 愛のネットワークの推進（福祉バザー等の開催）	

杷木地区(合同)社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□高齢者福祉(高齢者を対象とする福祉サービス)					
・隣近所への声かけや安否確認の手法	・仮設住宅では黄色い旗を掲げて安否確認を行っているので、今後相談や導入を検討している地区には、黄色い旗の導入を勧めていく	検討	実施	→	現在実施中の「防災講演会」の中で、「旗」を掲げて安否確認の件を話題にすると、かえって不用心になってしまうので、やめた方が良いとの意見も出たので、じっくりと構えて検討したい
・ボランティア活動への参加が少ない	・活動中のボランティア団体と相談して、チラシやコミュニティ放送を使って、参加の勧誘を促進させていく	検討	実施	→	朝倉市内のボランティアを集めての会合(報告会)は行われているが、旧杷木町地区での実践報告会は実施されていない。先ず、ボランティアの会合に顔をだし、相談している
・ほのぼの配食及び会食会の充実	・会食会は既に中止している。配食に関しては弁当製造からお菓子に変更。回数も年7回から4回に変更	実施	→	→	民生委員や配食ボランティアによりほのぼの配食を実施している
・ふれあいいきいきサロン活動の継続	・いきいきサロンは現在林田区を含めて10団体活動中。代表者が変更しながらも、しっかりと継続中	実施	→	→	地区社協から補助金を出して、活動の活性化を狙っている
・外出支援事業への取り組み	・買い物や通院などに利用している公共交通バスが開業。このバスを使って外出の頻度が多くなることを期待している	実施	→	→	平成24年度から「公共交通バス」が杷木東部線として開通。6年となる今年に見直し時期に来ているとの事で、「説明会」を開催してより利用しやすい公共交通システムを目指す
・福祉協力員を設置	・年度初めに区会長を通じて、各区の隣組長に「福祉協力員」になって頂き、区会長と民生委員に協力し、高齢者の情報の収集に努めてもらう	実施	→	→	毎年、年度初めに区会長を通じて「福祉協力員」として協力をお願いしている

□世代間連携(交流)福祉(高齢者の生きがいを促進し、世代をこえた交流事業)

・地域の行事や交流の場への参加	・地域の住民が多く集まる祭りなどには、なるべく住民が歩いてこれるような場所で行う様にする。チラシなどを利用して催し物の告知と宣伝していく	実施	→	→	実施中。地域のイベントには世代を越えての参加者は多数である。(福祉ふれあい朝市・歩け登山ゲートボール大会・カラーリング大会・バスハイク・ウォークラリー大会など)
・ふれあいいきいきサロンの新規立ち上げ	・まだ立ち上げていない地区への新規設置を促していく	実施	→	→	設置されていない地区には積極的に提案していく

□子育て支援・児童福祉(子育てしやすい環境づくりや児童を対象とする福祉サービス)

・ボランティア活動の推進	・参加しやすい環境をつくっていく(告知方法など)	実施	→	→	現ボランティアからの募集チラシ作製や回覧板の依頼とかが余りないので、こちらから提案して行く
・防犯パトロールによる挨拶・声かけ・見守り活動を実施	・PTA・役員・民生・児童委員が担当する青パトでの防犯パトロールを実施していく	実施	→	→	PTA関係と民児協とが協力してくれていて、円滑に活動しており継続していく
・新一年生へ黄色い傘を贈呈している	・新杷木小学校の開校に伴い、各地区社協が費用を負担している	実施	→	→	今後も継続して実施していく

杷木地区(合同)社会福祉協議会「第2期地域福祉活動計画」進捗(年次)計画表

地区における課題や問題点	今後の調整方法	進捗(年次)計画			地区での具体的な取組
		31年	33年	35年	
□障がい者福祉(身体、知的、発達、精神に障害のある方への自立を支援する福祉サービス)					
・障がいについての理解	・障がい者支援組織の存在を紹介し、どのような組織がどこに、いくつあるのかを住民に知ってもらう事から始めていく	検討	実施	→	住民が知っていないといけないことであり、今後検討し取り組んでいく
□住民全般の安心・安全・地域生活条件(利便)の確保(地域における住みやすいまちづくりの取り組み)					
・ボランティア活動への参加	・住民にどのようなボランティア団体があり、どのような活動をしているか知ってもらう事から始めていく	実施	→	→	コミュニティが、余り会合などに入っていないので今後は極力参加する事にする
・福祉マップづくり	・災害に備えて作成中の「避難行動支援者」のリストアップし、福祉マップを作成していく	検討	実施	→	「避難行動要支援者」のリストアップし、福祉マップを作成する
・災害時における人員把握と支援体制づくりの充実	・各区において防災講演会を開催し、消防・防災課や消防署の職員からの講話を聴く機会を設け、その後に防災組織を作り、避難訓練実施していく	実施	→	→	防災講演会を開催時に情報を収集し、支援体制を構築する

朝倉市地区社会福祉協議会地区情報一覧

平成31年1月31日現在

番号	地区社協名	人口	世帯数	65歳以上	75歳以上	高齢化率 (%)	少子化率 (%)	行政区	民生児童委員数	福祉委員数	ネットワーク委員数
1	上秋月	870	342	384	223	44.1	6.0	9	6	18	25
2	秋月	747	351	335	204	44.8	11.0	8	5	0	29
3	安川	1,694	671	713	371	42.1	7.9	10	8	0	0
4	甘木	9,721	4,317	2,823	1,463	29.0	13.6	31	23	0	55
5	馬田	4,253	1,675	1,284	651	30.2	13.5	8	9	45	36
6	立石	10,513	4,049	2,420	1,070	23.0	17.0	9	13	12	0
7	福田	2,608	1,053	939	464	36.0	10.6	9	7	23	0
8	蟻城	1,705	620	676	363	39.6	8.7	17	6	0	24
9	金川	2,859	1,112	997	507	34.9	11.2	7	8	0	25
10	三奈木	3,160	1,267	1,267	674	40.1	10.1	15	9	88	104
11	美奈宜の杜	663	331	388	183	58.5	6.6	6	3	0	0
12	高木	309	161	188	116	60.8	1.9	15	6	0	0
13	朝倉	7,851	2,714	3,053	1,656	38.9	9.8	44	22	0	0
14	杷木	6,454	2,696	2,434	1,238	37.7	9.2	51	24	136	0
	合計	53,407	21,359	17,901	9,183	33.5	12.0	239	149	322	298